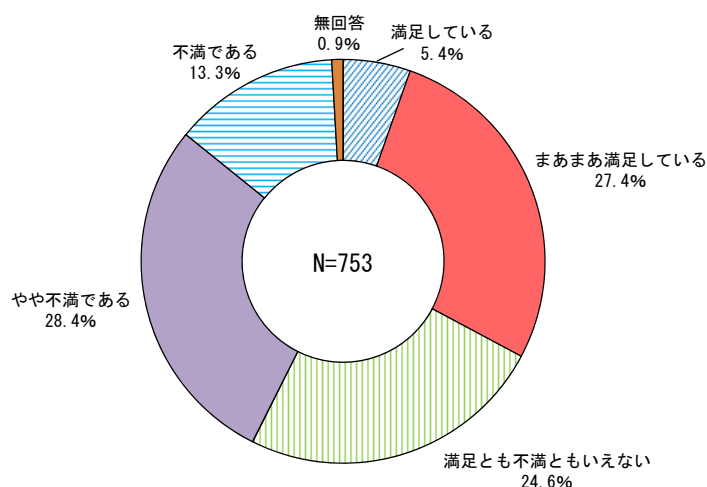


2 道道における道路除排雪について

問1 道道の除排雪作業全般について、あなたはどの程度満足していますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「やや不満である」(28.4%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「まあまあ満足している」(27.4%)、「満足とも不満ともいえない」(24.6%)の順となっている。

【圏域別】

「やや不満である」については、道南圏(35.0%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(34.1%)となっている。「まあまあ満足している」については、十勝圏(34.9%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(30.0%)となっている。

【人口規模別】

「やや不満である」については、札幌市(34.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(31.9%)となっている。「まあまあ満足している」については、町村部(37.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(35.6%)となっている。

【性別】

「やや不満である」については、男性27.8%、女性29.3%となっており、「まあまあ満足している」については、男性28.7%、女性26.2%となっている。

【年代別】

「やや不満である」については、70歳以上(44.4%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(33.6%)となっている。「まあまあ満足している」については、70歳以上(33.3%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(30.8%)となっている。

【職種別】

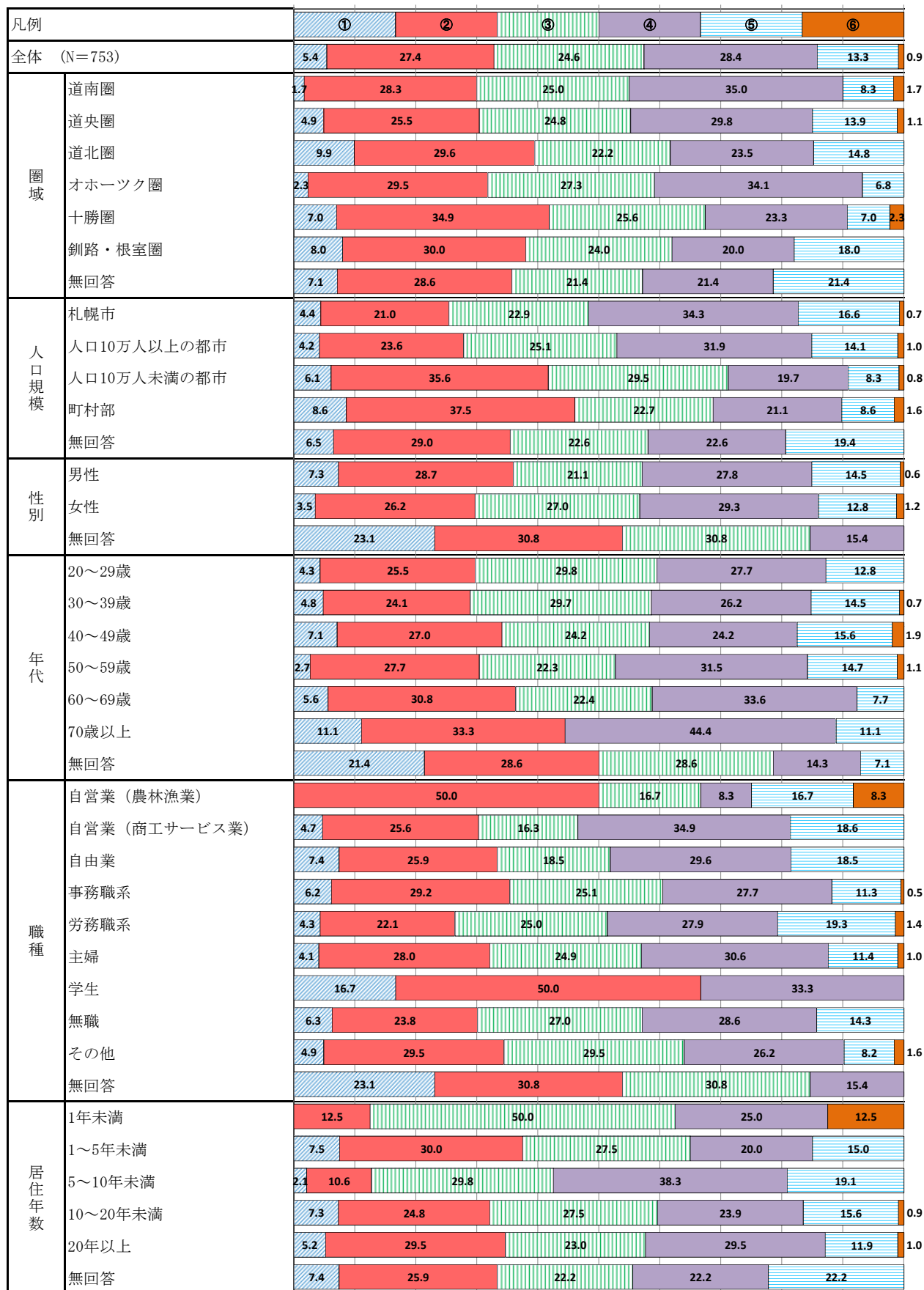
「やや不満である」については、自営業(商工サービス業)(34.9%)が最も割合が高く、次いで学生(33.3%)となっている。「まあまあ満足している」については、自営業(農林漁業)(50.0%)と学生(50.0%)が最も割合が高く、次いでその他(29.5%)となっている。

【居住年数別】

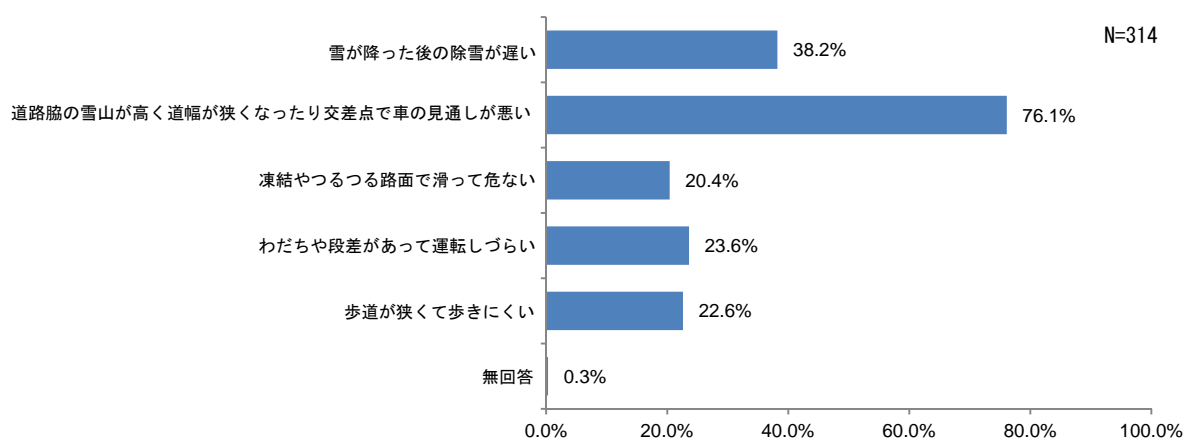
「やや不満である」については、5～10年未満(38.3%)が最も割合が高く、次いで20年以上(29.5%)となっている。「まあまあ満足している」については、1～5年未満(30.0%)が最も割合が高く、次いで20年以上(29.5%)となっている。

①満足している ②まあまあ満足している ③満足とも不満ともいえない
 ④やや不満である ⑤不満である ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問2 ※「問1」で「4」または「5」を選んだ方のみお答えください。
 道道の除排雪について、あなたが不満に思っている道路状況は何ですか。
 次の中から2つまでお選びください。



【全体】

「道路脇の雪山が高く道幅が狭くなったり交差点で車の見通しが悪い」（76.1%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「雪が降った後の除雪が遅い」（38.2%）、「わだちや段差があって運転しづらい」（23.6%）の順となっている。

【圏域別】

「道路脇の雪山が高く道幅が狭くなったり交差点で車の見通しが悪い」については、十勝圏（92.3%）が最も割合が高く、次いで道北圏（83.9%）となっている。「雪が降った後の除雪が遅い」については、釧路・根室圏（52.6%）が最も割合が高く、次いで道南圏（50.0%）となっている。

【人口規模別】

「道路脇の雪山が高く道幅が狭くなったり交差点で車の見通しが悪い」については、札幌市（85.5%）が最も割合が高く、次いで町村部（81.6%）となっている。「雪が降った後の除雪が遅い」については、人口10万人未満の都市（59.5%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市（45.5%）となっている。

【性別】

「道路脇の雪山が高く道幅が狭くなったり交差点で車の見通しが悪い」については、男性74.6%、女性77.0%となっており、「雪が降った後の除雪が遅い」については、男性39.6%、女性37.6%となっている。

【年代別】

「道路脇の雪山が高く道幅が狭くなったり交差点で車の見通しが悪い」については、20～29歳（84.2%）が最も割合が高く、次いで50～59歳（80.0%）と70歳以上（80.0%）となっている。「雪が降った後の除雪が遅い」については、40～49歳（44.0%）が最も割合が高く、次いで30～39歳（42.4%）となっている。

【職種別】

「道路脇の雪山が高く道幅が狭くなったり交差点で車の見通しが悪い」については、学生（100.0%）が最も割合が高く、次いで自由業（84.6%）となっている。「雪が降った後の除雪が遅い」については、その他（57.1%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（52.2%）となっている。

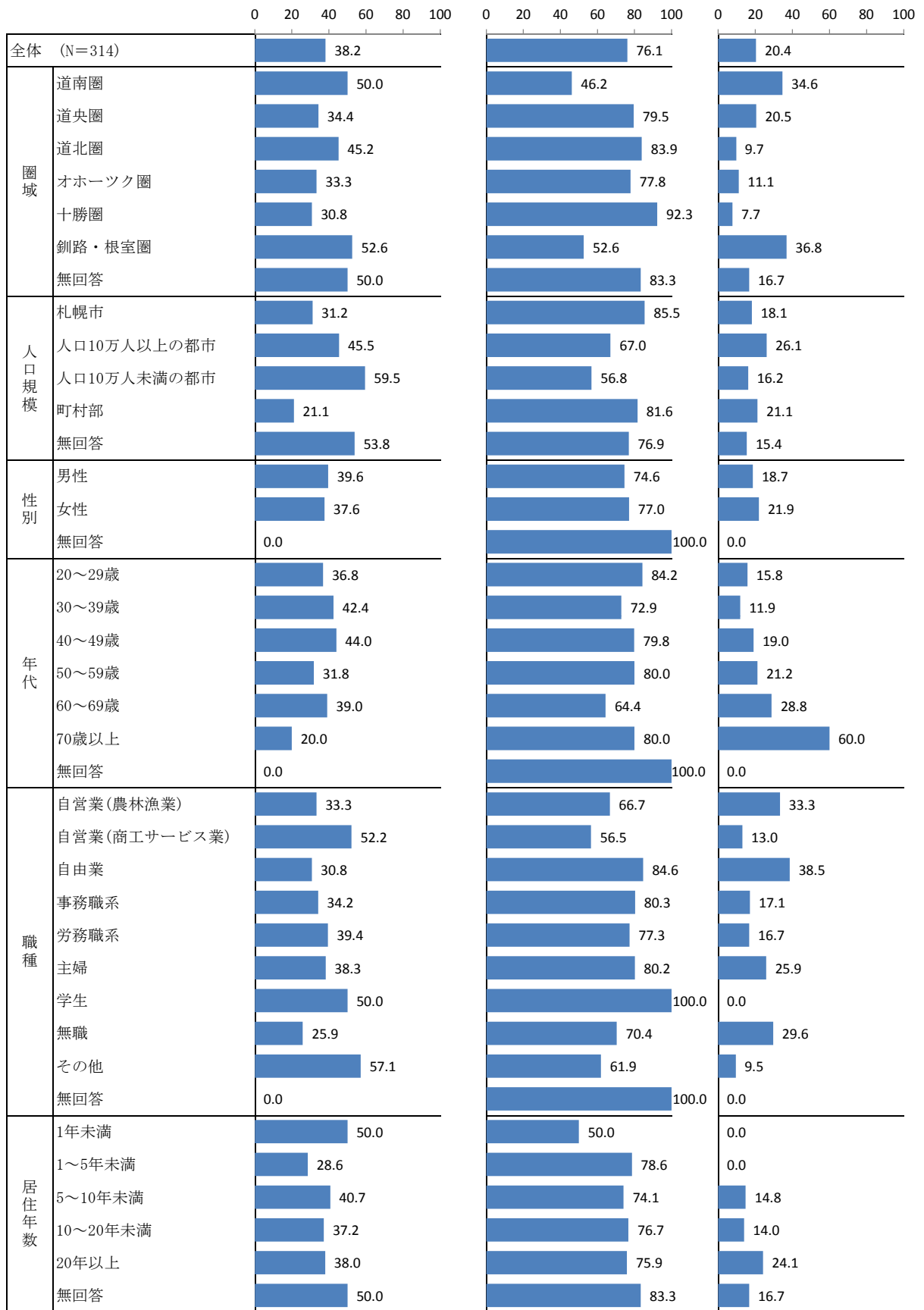
【居住年数別】

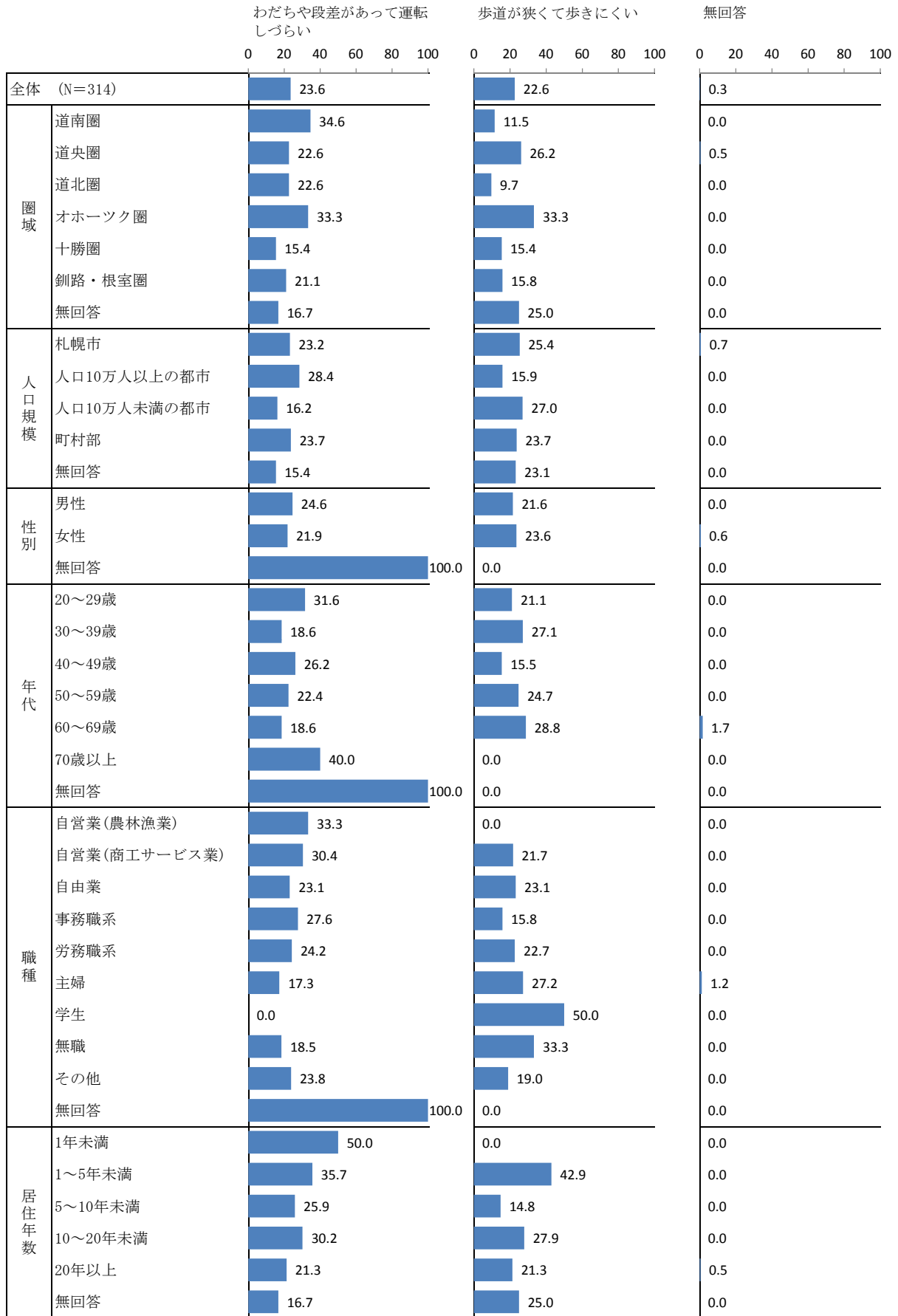
「道路脇の雪山が高く道幅が狭くなったり交差点で車の見通しが悪い」については、1～5年未満（78.6%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（76.7%）となっている。「雪が降った後の除雪が遅い」については、1年未満（50.0%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（40.7%）となっている。

雪が降った後の除雪が遅い

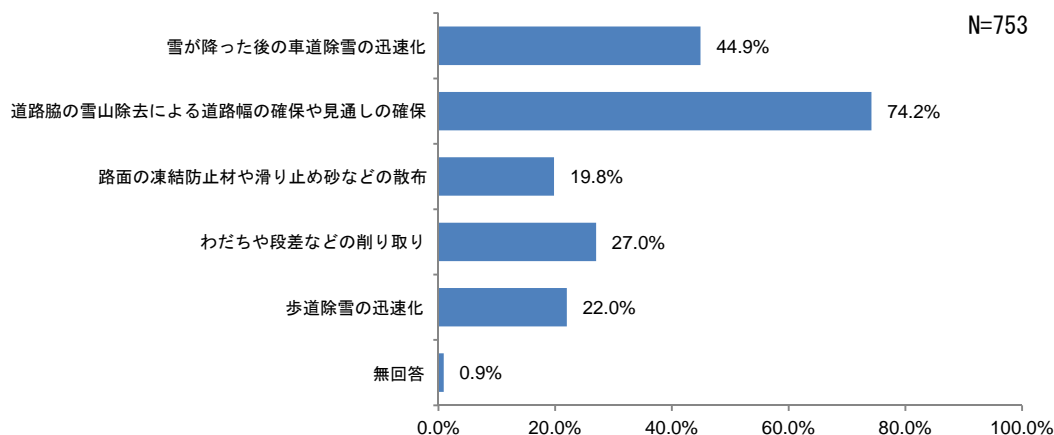
道路脇の雪山が高く道幅が狭く
なったり交差点で車の見通しが
悪い

凍結やつるつる路面で滑って
危ない





問3 道道の除排雪において、あなたが重要だと思う除雪作業は何ですか。
次の中から2つまでお選びください。



【全体】

「道路脇の雪山除去による道路幅の確保や見通しの確保」(74.2%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「雪が降った後の車道除雪の迅速化」(44.9%)、「わだちや段差などの削り取り」(27.0%)の順となっている。

【圏域別】

「道路脇の雪山除去による道路幅の確保や見通しの確保」については、オホーツク圏(84.1%)が最も割合が高く、次いで道北圏(81.5%)となっている。「雪が降った後の車道除雪の迅速化」については、オホーツク圏(59.1%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(54.0%)となっている。

【人口規模別】

「道路脇の雪山除去による道路幅の確保や見通しの確保」については、札幌市(82.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(71.2%)となっている。「雪が降った後の車道除雪の迅速化」については、人口10万人未満の都市(50.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(47.1%)となっている。

【性別】

「道路脇の雪山除去による道路幅の確保や見通しの確保」については、男性71.6%、女性75.9%となっており、「雪が降った後の車道除雪の迅速化」については、男性47.0%、女性43.7%となっている。

【年代別】

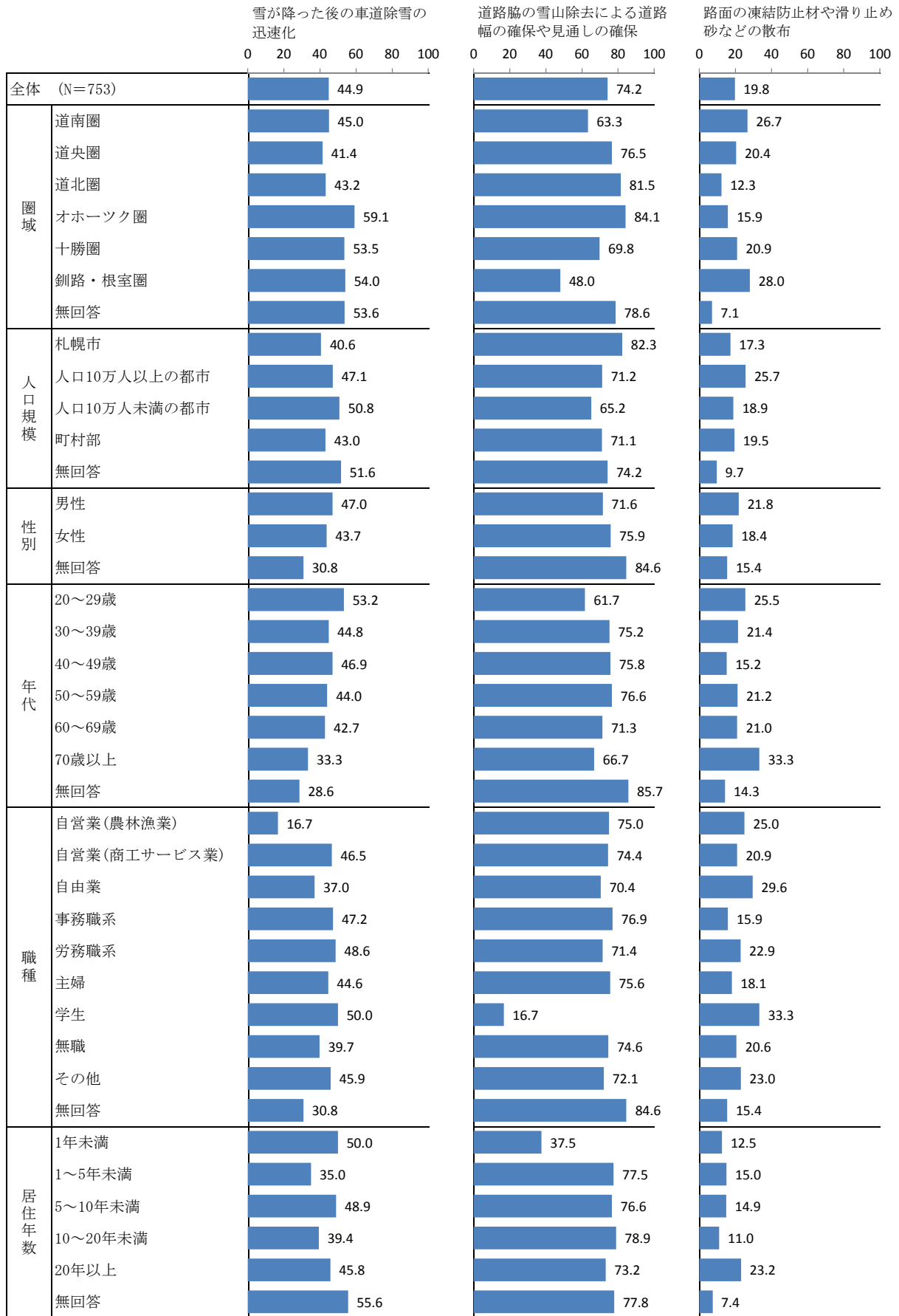
「道路脇の雪山除去による道路幅の確保や見通しの確保」については、50～59歳(76.6%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(75.8%)となっている。「雪が降った後の車道除雪の迅速化」については、20～29歳(53.2%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(46.9%)となっている。

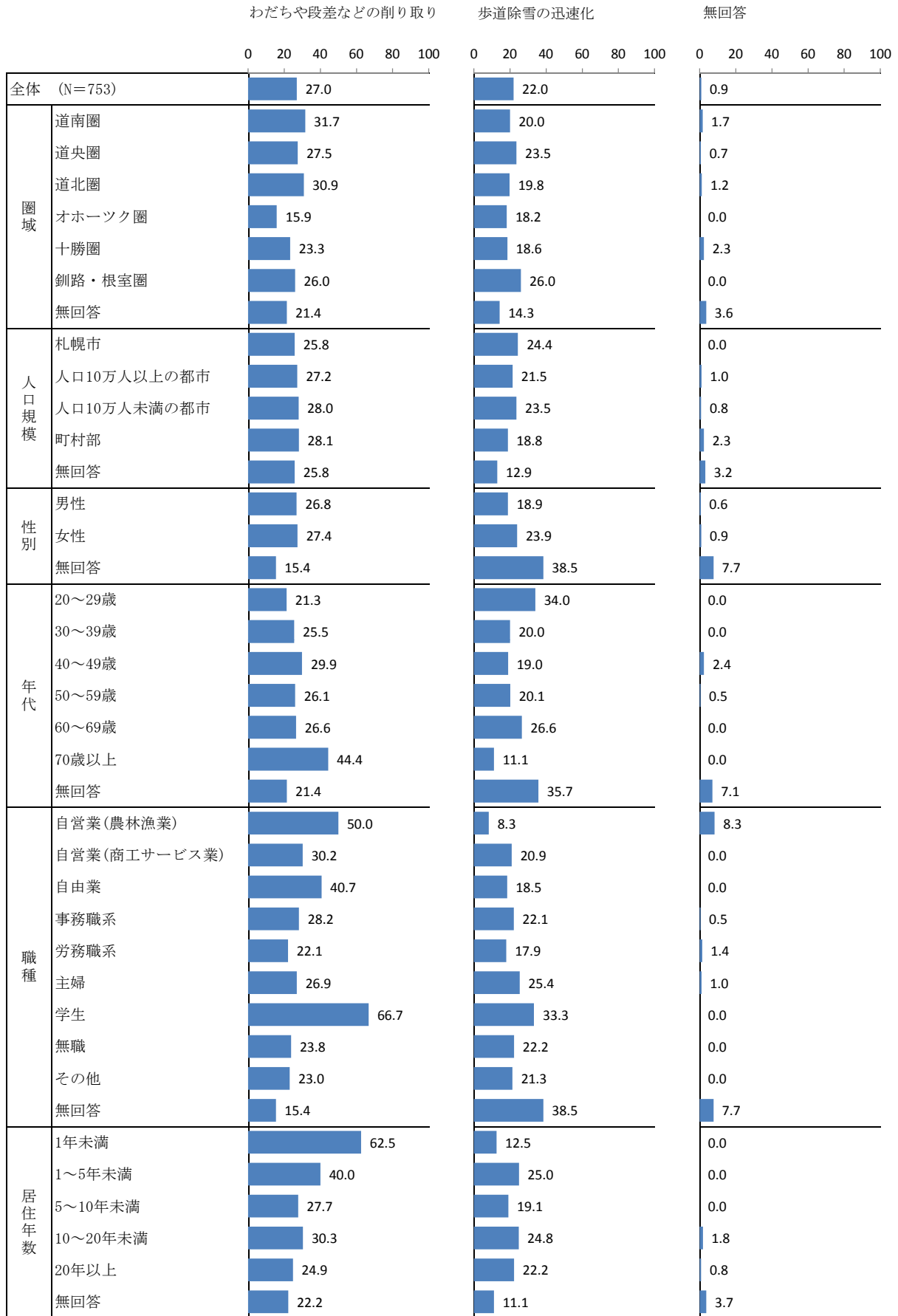
【職種別】

「道路脇の雪山除去による道路幅の確保や見通しの確保」については、事務職系(76.9%)が最も割合が高く、次いで主婦(75.6%)となっている。「雪が降った後の車道除雪の迅速化」については、学生(50.0%)が最も割合が高く、次いで労務職系(48.6%)となっている。

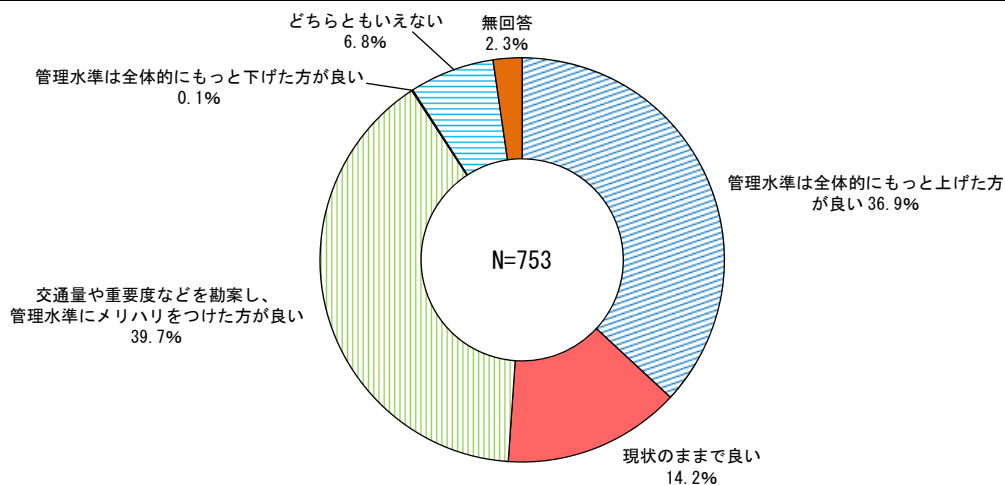
【居住年数別】

「道路脇の雪山除去による道路幅の確保や見通しの確保」については、10～20年未満(78.9%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(77.5%)となっている。「雪が降った後の車道除雪の迅速化」については、1年未満(50.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(48.9%)となっている。





問4 道道の除排雪における管理水準（除排雪によって維持される道路の状態）について、あなたは
 どのように思いますか。
 次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方が良い」（39.7%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「管理水準は全体的にもっと上げた方が良い」（36.9%）、「現状のままで良い」（14.2%）の順となっている。

【圏域別】

「交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方が良い」については、オホーツク圏（45.5%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏（42.0%）となっている。「管理水準は全体的にもっと上げた方が良い」については、道北圏（39.5%）が最も割合が高く、次いで道央圏（39.4%）となっている。

【人口規模別】

「交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方が良い」については、町村部（46.9%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市（40.8%）となっている。「管理水準は全体的にもっと上げた方が良い」については、札幌市（42.8%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市（37.7%）となっている。

【性別】

「交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方が良い」については、男性42.6%、女性37.4%となっており、「管理水準は全体的にもっと上げた方が良い」については、男性30.0%、女性42.3%となっている。

【年代別】

「交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方が良い」については、60～69歳（44.8%）が最も割合が高く、次いで70歳以上（44.4%）となっている。「管理水準は全体的にもっと上げた方が良い」については、30～39歳（43.4%）が最も割合が高く、次いで20～29歳（42.6%）となっている。

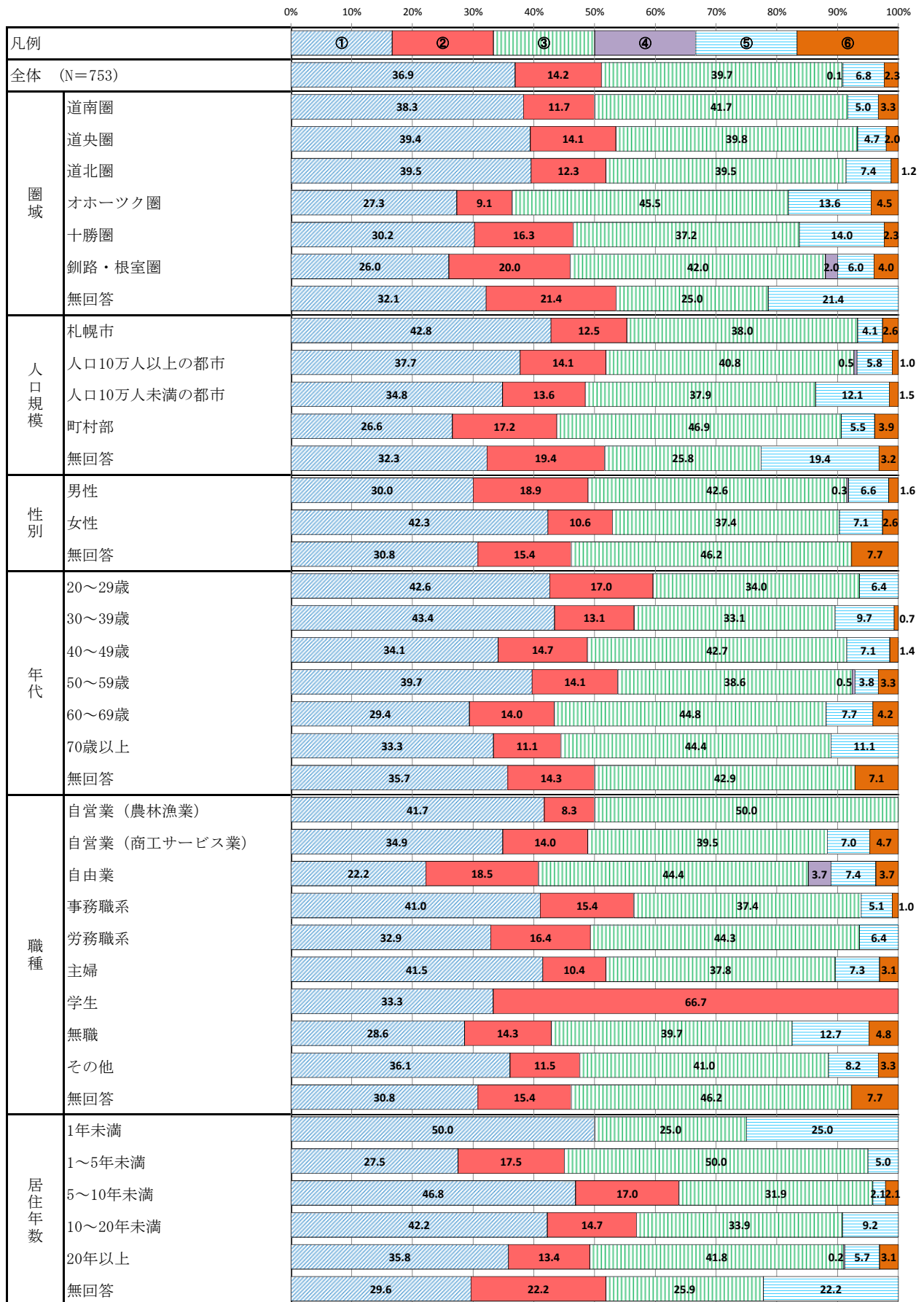
【職種別】

「交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方が良い」については、自営業（農林漁業）（50.0%）が最も割合が高く、次いで自由業（44.4%）となっている。「管理水準は全体的にもっと上げた方が良い」については、自営業（農林漁業）（41.7%）が最も割合が高く、次いで主婦（41.5%）となっている。

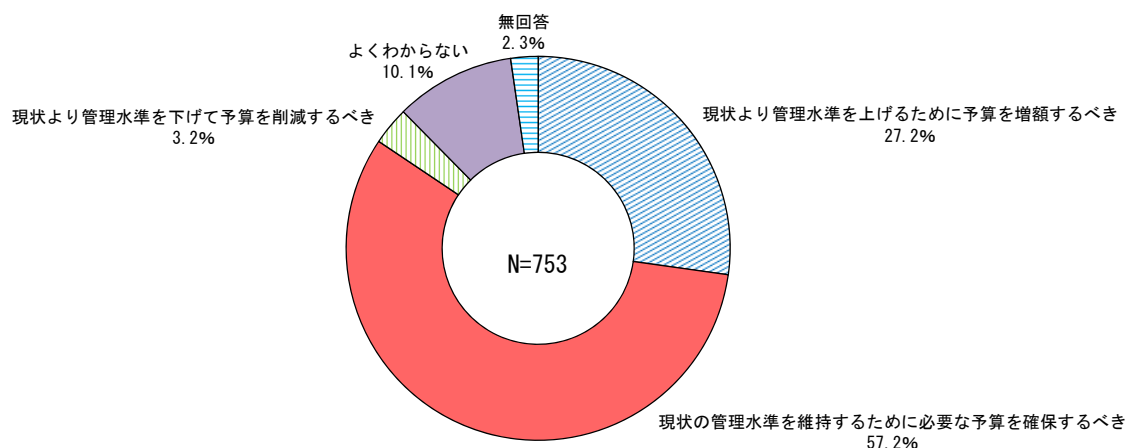
【居住年数別】

「交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方が良い」については、1～5年未満（50.0%）が最も割合が高く、次いで20年以上（41.8%）となっている。「管理水準は全体的にもっと上げた方が良い」については、1年未満（50.0%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（46.8%）となっている。

- ①管理水準は全体的にもっと上げた方が良い ②現状のままで良い
 ③交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方が良い
 ④管理水準は全体的にもっと下げた方が良い ⑤どちらともいえない ⑥無回答



問5 北海道が管理する道道の除雪延長は約10,343kmあり、毎年度当初予算が大幅に不足するため、その都度補正予算などで対応している状況ですが、道道の除雪費についてあなたはどのように思いますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「現状の管理水準を維持するために必要な予算を確保すべき」（57.2%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「現状より管理水準を上げるために予算を増額すべき」（27.2%）、「よくわからない」（10.1%）の順となっている。

【圏域別】

「現状の管理水準を維持するために必要な予算を確保すべき」については、道南圏（66.7%）が最も割合が高く、次いでオホーツク圏（65.9%）となっている。「現状より管理水準を上げるために予算を増額すべき」については、道北圏（35.8%）が最も割合が高く、次いで道央圏（28.6%）となっている。

【人口規模別】

「現状の管理水準を維持するために必要な予算を確保すべき」については、人口10万人未満の都市（67.4%）が最も割合が高く、次いで町村部（64.1%）となっている。「現状より管理水準を上げるために予算を増額すべき」については、札幌市（35.1%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市（28.3%）となっている。

【性別】

「現状の管理水準を維持するために必要な予算を確保すべき」については、男性56.8%、女性57.9%となっており、「現状より管理水準を上げるために予算を増額すべき」については、男性27.1%、女性27.4%となっている。

【年代別】

「現状の管理水準を維持するために必要な予算を確保すべき」については、60～69歳（64.3%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（59.7%）となっている。「現状より管理水準を上げるために予算を増額すべき」については、20～29歳（48.9%）が最も割合が高く、次いで30～39歳（31.7%）となっている。

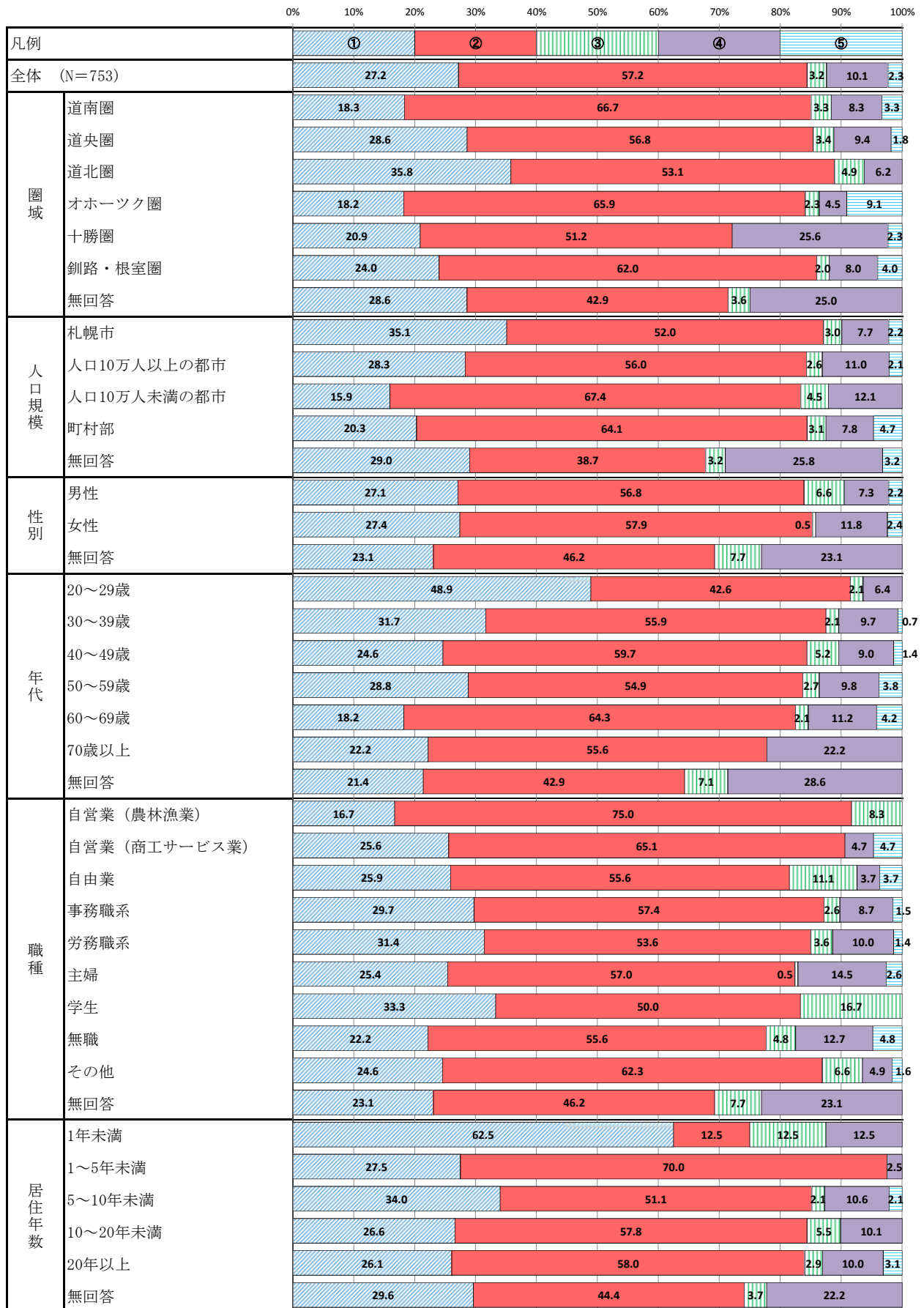
【職種別】

「現状の管理水準を維持するために必要な予算を確保すべき」については、自営業（農林漁業）（75.0%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（65.1%）となっている。「現状より管理水準を上げるために予算を増額すべき」については、学生（33.3%）が最も割合が高く、次いで労務職系（31.4%）となっている。

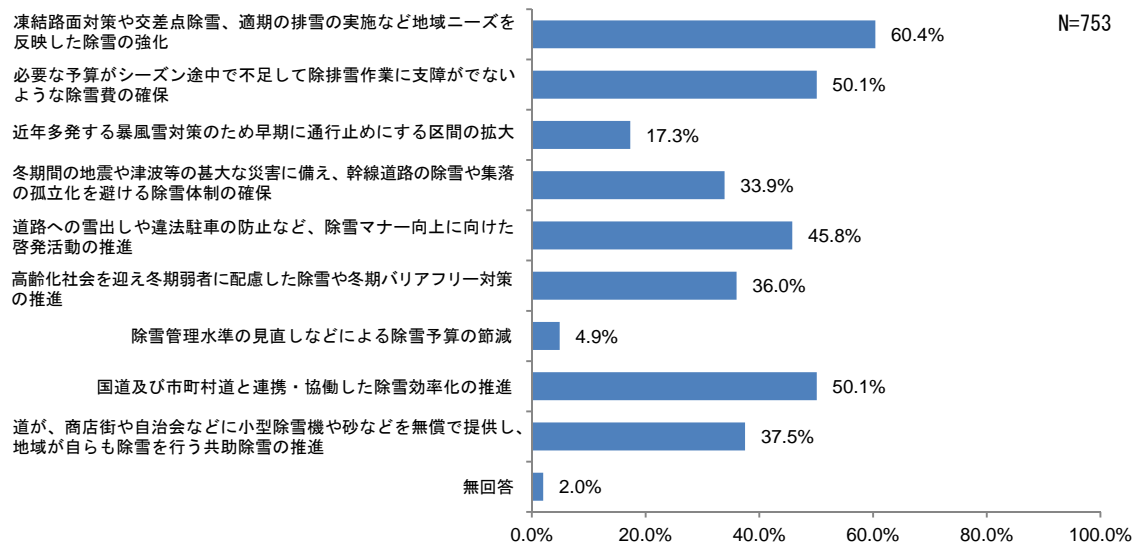
【居住年数別】

「現状の管理水準を維持するために必要な予算を確保すべき」については、1～5年未満（70.0%）が最も割合が高く、次いで20年以上（58.0%）となっている。「現状より管理水準を上げるために予算を増額すべき」については、1年未満（62.5%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（34.0%）となっている。

- ①現状より管理水準を上げるために予算を増額するべき
 ②現状の管理水準を維持するために必要な予算を確保するべき
 ③現状より管理水準を下げて予算を削減するべき ④よくわからない ⑤無回答



問6 人口減少、少子高齢化が進む中、冬期道路の除排雪について、今後、北海道が特に力を入れてやるべきことはどのようなことだと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「凍結路面对策や交差点除雪、適期の排雪の実施など地域ニーズを反映した除雪の強化」(60.4%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「必要な予算がシーズン途中で不足して除排雪作業に支障がでないような除雪費の確保」(50.1%)と「国道及び市町村道と連携・協働した除雪効率化の推進」(50.1%)、「道路への雪出しや違法駐車防止など、除雪マナー向上に向けた啓発活動の推進」(45.8%)の順となっている。

【圏域別】

「凍結路面对策や交差点除雪、適期の排雪の実施など地域ニーズを反映した除雪の強化」については、十勝圏(76.7%)が最も割合が高く、次いで道南圏(68.3%)となっている。「必要な予算がシーズン途中で不足して除排雪作業に支障がでないような除雪費の確保」については、道北圏(58.0%)が最も割合が高く、次いで道南圏(53.3%)となっている。「国道及び市町村道と連携・協働した除雪効率化の推進」については、オホーツク圏(70.5%)が最も割合が高く、次いで道央圏(51.2%)となっている。

【人口規模別】

「凍結路面对策や交差点除雪、適期の排雪の実施など地域ニーズを反映した除雪の強化」については、札幌市(62.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(60.7%)となっている。「必要な予算がシーズン途中で不足して除排雪作業に支障がでないような除雪費の確保」については、人口10万人未満の都市(53.8%)が最も割合が高く、次いで札幌市(52.8%)となっている。「国道及び市町村道と連携・協働した除雪効率化の推進」については、人口10万人以上の都市(56.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(55.3%)となっている。

【性別】

「凍結路面对策や交差点除雪、適期の排雪の実施など地域ニーズを反映した除雪の強化」については、男性59.3%、女性61.2%となっており、「必要な予算がシーズン途中で不足して除排雪作業に支障がでないような除雪費の確保」については、男性49.5%、女性50.6%となっている。「国道及び市町村道と連携・協働した除雪効率化の推進」については、男性54.9%、女性46.8%となっている。

【年代別】

「凍結路面对策や交差点除雪、適期の排雪の実施など地域ニーズを反映した除雪の強化」については、70歳以上(66.7%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(63.4%)となっている。「必要な予算がシーズン途中で不足して除排雪作業に支障がでないような除雪費の確保」については、30～39歳(57.9%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(54.0%)となっている。「国道及び市町村道と連携・協働した

除雪効率化の推進」については、70歳以上（66.7%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（53.8%）となっている。

【職種別】

「凍結路面对策や交差点除雪、適期の排雪の実施など地域ニーズを反映した除雪の強化」については、主婦（63.2%）が最も割合が高く、次いで労務職系（61.4%）となっている。「必要な予算がシーズン途中で不足して除排雪作業に支障がでないような除雪費の確保」については、自営業（農林漁業）（91.7%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（53.5%）となっている。「国道及び市町村道と連携・協働した除雪効率化の推進」については、学生（83.3%）が最も割合が高く、次いで自由業（66.7%）となっている。

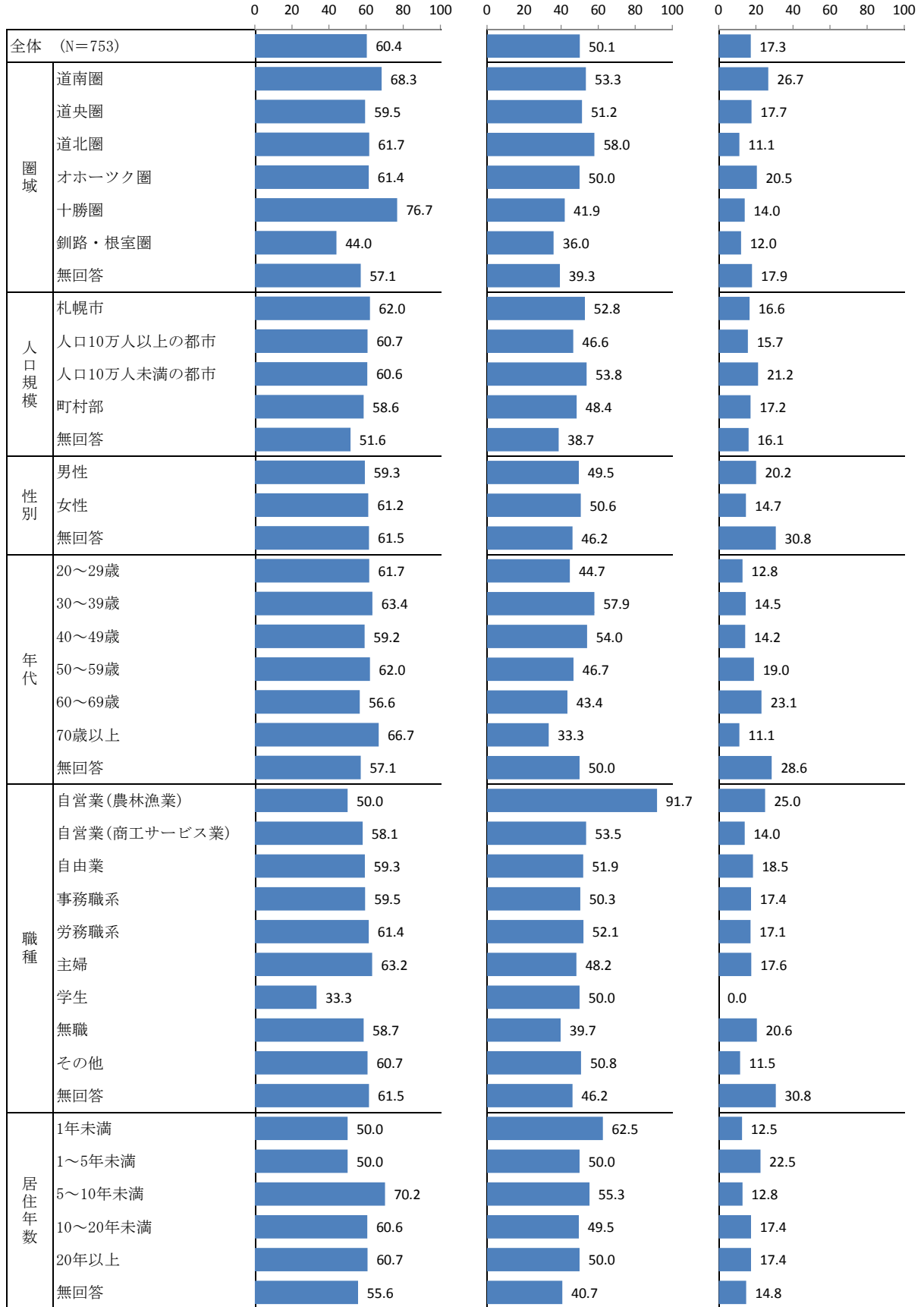
【居住年数別】

「凍結路面对策や交差点除雪、適期の排雪の実施など地域ニーズを反映した除雪の強化」については、5～10年未満（70.2%）が最も割合が高く、次いで20年以上（60.7%）となっている。「必要な予算がシーズン途中で不足して除排雪作業に支障がでないような除雪費の確保」については、1年未満（62.5%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（55.3%）となっている。「国道及び市町村道と連携・協働した除雪効率化の推進」については、1年未満（62.5%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満（55.0%）となっている。

凍結路面対策や交差点除雪、適期の排雪の実施など地域ニーズを反映した除雪の強化

必要な予算がシーズン途中で不足して除排雪作業に支障がでないような除雪費の確保

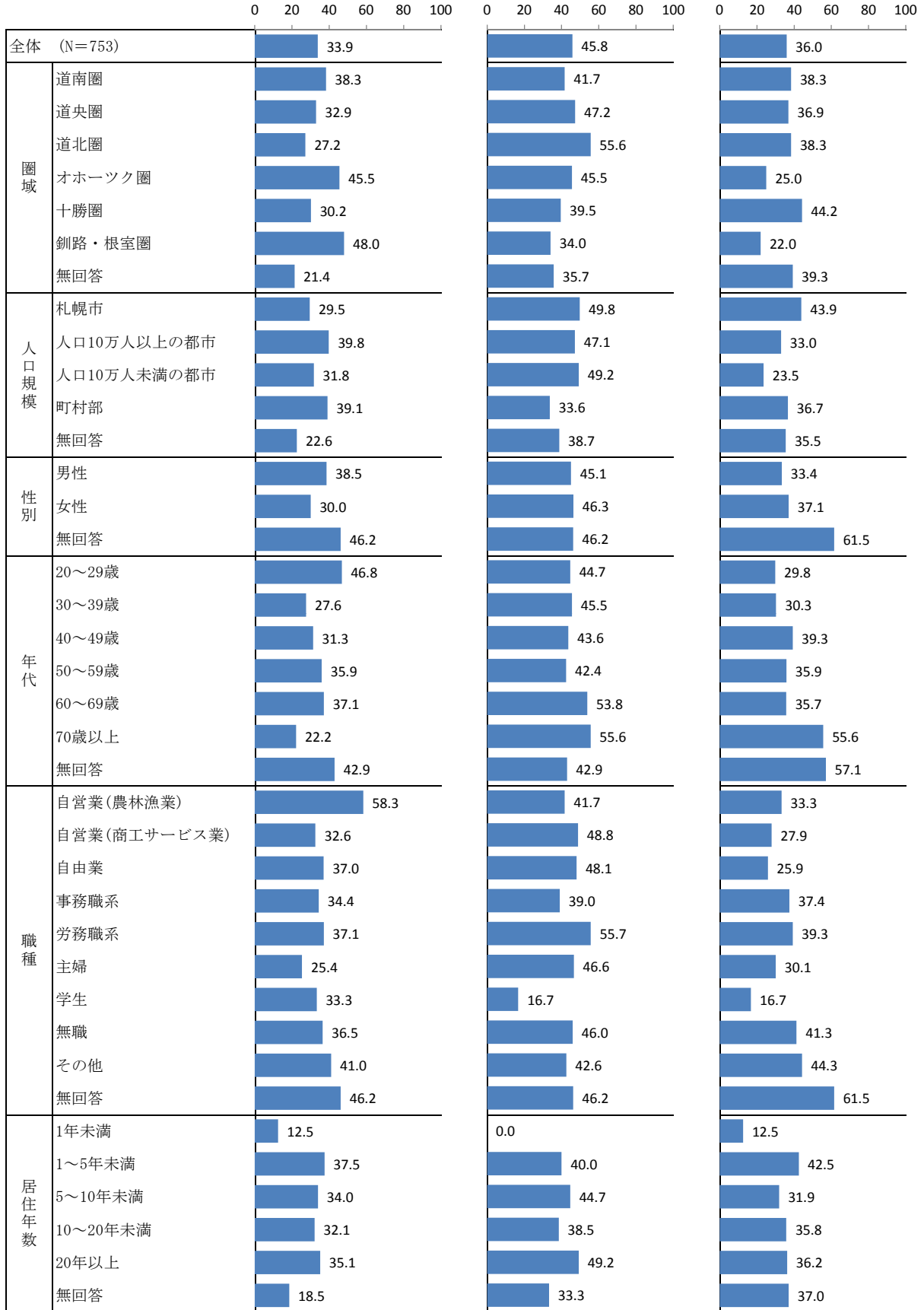
近年多発する暴風雪対策のため早期に通行止めにする区間の拡大



冬期間の地震や津波等の甚大な災害に備え、幹線道路の除雪や集落の孤立化を避ける除雪体制の確保

道路への雪出しや違法駐車防止など、除雪マナー向上に向けた啓発活動の推進

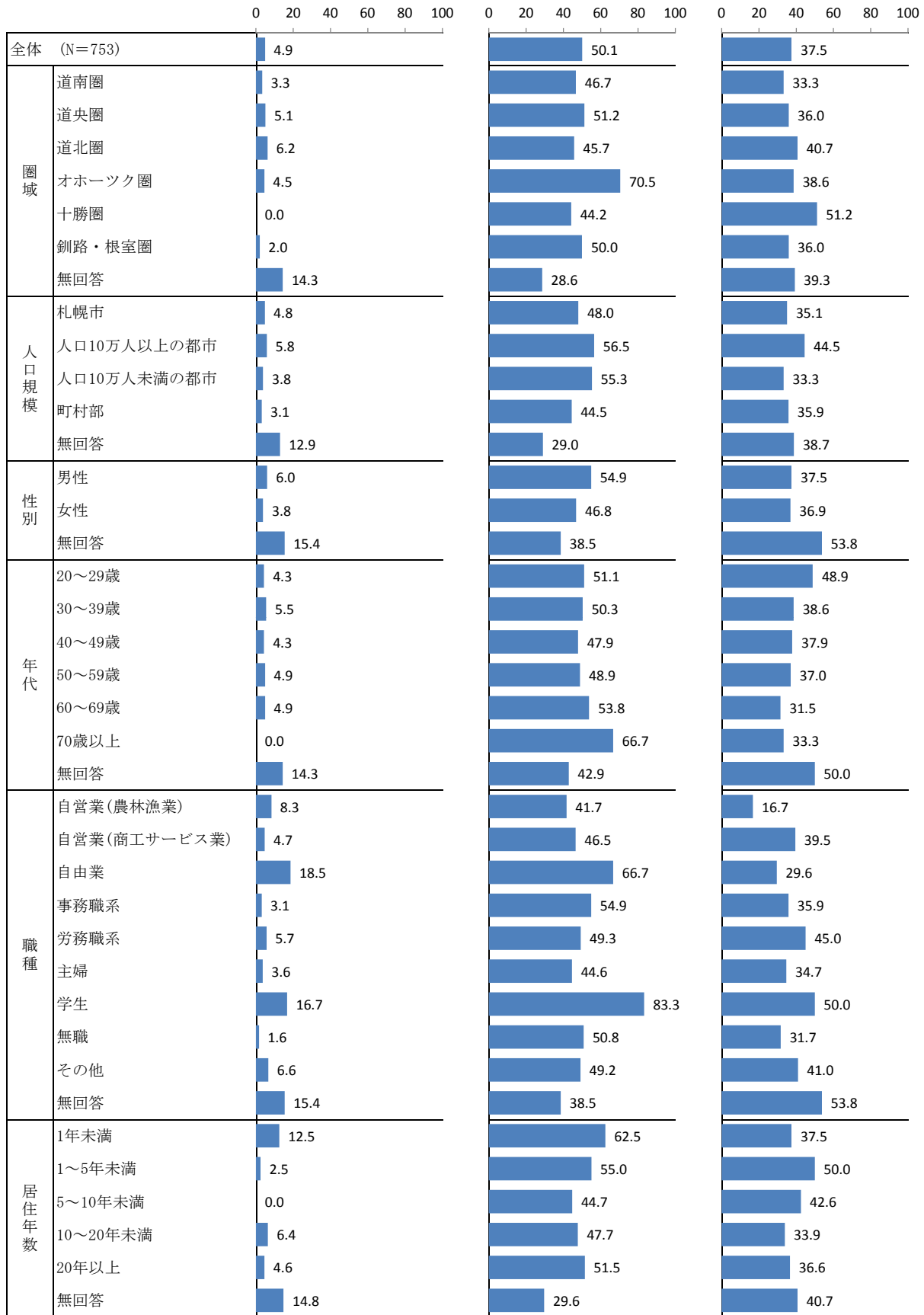
高齢化社会を迎え冬期弱者に配慮した除雪や冬期バリアフリー対策の推進



除雪管理水準の見直しなど
による除雪予算の節減

国道及び市町村道と連携・
協働した除雪効率化の推進

道が、商店街や自治会などに小型除
雪機や砂などを無償で提供し、地域
が自らも除雪を行う共助除雪の推進



無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=753)		2.0
圏域	道南圏	1.7
	道央圏	1.8
	道北圏	1.2
	オホーツク圏	4.5
	十勝圏	2.3
	釧路・根室圏	4.0
	無回答	0.0
	札幌市	2.6
人口規模	人口10万人以上の都市	1.0
	人口10万人未満の都市	1.5
	町村部	3.1
	無回答	0.0
性別	男性	1.9
	女性	2.1
	無回答	0.0
年代	20～29歳	0.0
	30～39歳	3.4
	40～49歳	0.9
	50～59歳	2.2
	60～69歳	2.8
	70歳以上	0.0
	無回答	0.0
職種	自営業(農林漁業)	0.0
	自営業(商工サービス業)	4.7
	自由業	7.4
	事務職系	1.0
	労務職系	0.0
	主婦	3.1
	学生	0.0
	無職	4.8
	その他	0.0
	無回答	0.0
居住年数	1年未満	12.5
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	4.3
	10～20年未満	1.8
	20年以上	1.9
	無回答	0.0

「道道における道路除排雪について」の調査を終えて

「道道の除排雪について不満に思っている道路状況」及び「道道の除排雪において重要だと思う除雪作業」の回答結果を見ると、道路脇の雪山除去による道幅の確保や見通しの確保に対するニーズが高いことが分かる。

また、道道の管理水準に関する回答結果を見ると、「交通量や重要度などを勘案し、管理水準にメリハリをつけた方がよい」が約 40%、「管理水準は全体的にもっと上げた方がよい」が約 37%となっており、現状の除排雪に関する管理水準について、改善すべきという意見が全体の 8 割近くを占めている。

冬期における円滑な道路交通の確保は、道民の安全で安心な暮らしを支えるうえで大変重要なことであり、今後とも、地域のニーズを伺いながら、安全で円滑な走行環境の確保に向け、今回の調査結果を踏まえ、より効果的・効率的な道路の除排雪の実施に努めていく。

(建設部建設政策局維持管理防災課)